



三菱UFJ国際投信株式会社取締役社長

金上孝

両社のノウハウを掛け合わせ 質の高い商品を提供する

——まずは、今回の合併の狙いから伺いたいと思います。

金上 今、アベノミクスの追い風を受け、世の中は貯蓄から投資へと大きく動いています。そうした中で、同じ三菱UFJフィナンシャル・グループに属する運用会社が力を合わせ、今まで以上に質の高い商品・サービスを提供することが重要であると考えました。

国際投信は、一時は資産残高5兆7685億円を記録した「グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）」を開発し、わかりやすい販売資料の提供などを通じて大ヒット商品に育ててきた実績があります。また、全国津々浦々の金融機関にまで販売網を有しています。

一方の三菱UFJ投信は、日本で最初の投信会社である山一証券投資信託委託の買収などを

経て今に至っていることもあって、多様な商品を有しているという特徴があります。とりわけ、ネット専用のインデックスファンドシリーズ「eMAXISシリーズ」はネット投資家の皆さまの評価を受け、8月末にシリーズ19本合計で運用残高2000億円を突破しました。また、大手地方銀行への販売力が強いというのも特徴のひとつです。

合併により、両社が長年培ってきたノウハウを掛け合わせれば、商品開発力・サービス力は倍以上になると自負しています。——では、三菱UFJ国際投信の経営方針をお聞かせください。

金上 新会社の経営ビジョンでは3つ指針を打ち出しました。①投信会社としての受託者責任を全うするため、常にお客さまからの「信頼」に応え、お客さまのために行動する、②真のプロフェッショナル集団として、お客さまの期待を超える「プラスα」を提供し続ける、③世界

ラップ型ファンドを コア商品に据えることが 長期投資には不可欠です

国内運用会社の再編・新設が加速している。

7月1日には、三菱UFJ投信と国際投信投資顧問が合併し、三菱UFJ国際投信株式会社が誕生した。

業界第3位となった新会社は何を目指すのか、金上孝取締役社長にお話を伺った。